

(1)事業の概要等

令和6年度 事務事業評価シート

事業番号		B2201-2		事務事業名		創垂館施設管理事業				事業期間			令和3年度		～	令和8年度以降					
実施計画事業																					
実施計画事業以外の事業		○		担当部		教育委員会事務局				担当課・担当係			小牧山課 史跡係								
事業の概要	小牧市まちづくり推進計画(R5年～R8年)	分野別計画編		基本 施策	22	展開 方向	1	事業・予算区分		施設整備系事業		款	10	項	5	目	7	大	4	中	1
	根拠法令・個別計画	小牧市創垂館の設置及び管理に関する条例							対象 (何・誰を対象に)		小牧市創垂館										
	目的 (何のために)	明治21年に当時の愛知県によって迎賓館として建設され、近代以降の小牧山の歴史を物語る歴史的建造物である創垂館を適切に保存・管理することによりその価値を広く周知するとともに、後世に伝えることにより市民文化の向上を図る。							内容 (どのような方法で)		○令和5年度の実施内容 ・指定管理者である小牧市民文化財団へ委託し管理・運営を行った。また、利活用を図るため、指定管理者によるイベントや講座として、「生け花体験講座」、「おいしい煎茶の淹れ方講座」などを開催した。 ・令和2・3年度に実施した復元的整備工事の記録をまとめるとともに、国の登録文化財の申請に向けた書類等を委託作成した。										

(2)事業費

。

事業費	項目				単位等	R2	R3	R4	R5	R6
	直接経費	決算額	財源	一般財源	千円	—	2,560	3,999	10,526	
				国・県支出金		—	—	—		
				その他		—	—	—		
			計(A)		0	2,560	3,999	10,526		
			対前年比		%	—	—	156.21%	263.22%	
	予算額			千円	0	0	8,975	11,988	6,809	
	人件費	正規職員			人	0	0.01	0.02	0.02	
		正規職員(平均賃金)			千円	0	75	150	150	
		その他職員			人	0	0	0	0	
		その他職員(時給×時間)			千円	0	0	0	0	
計(B)			千円	0	75	150	150			
事業費合計(C=A+B)				千円	0	2,635	4,149	10,676		

(3)業績

展開方向における指標の推移	基本施策	22	指標名		単位	方向性	基準値	R5	R6	R7	R8
			1	小牧山歴史館、小牧山城史跡情報館、創垂館の入場者数	人	↗	80,629	243,167			
	展開方向	1	2								
			3								

指標	指標ほか		単位		R2	R3	R4	R5	R6
	成果指標	利用人数(見学利用含む)	延べ人数	目標	—	—	5,000	5,500	6,000
				実績	—	—	4,509	7,271	
		貸館利用	時間	目標	—	—	300	315	330
				実績	—	—	311	360	
	活動指標	開館日数	日	目標	—	—	300	300	300
				実績	—	—	308	308	
		講座等開催件数	件	目標	—	—	5	5	5
				実績	—	—	1	5	
	単位あたり 事業費	受益者数(a)		人	—	—	4,509	7,271	
受益者あたり事業費(=C/a)		円	—	—	920	1,468			

(4-1)事業の評価

事業の評価	事業の方向性	維 持(改 善)	事業のボリュームは現状規模で維持するものの、手法の改善をするもの							
	事業の達成状況と課題	老朽化により平成24年8月から利用を中止とていたが、令和2～3年度に保存修理工事を実施した。 令和4年4月より利用再開したことにより、多くの方に見学や貸館利用をしていただくことができた。 令和5年度は、成果指標及び活動指標の目標を達成している。 創垂館は、明治21年建設当時の建材を可能な限り再利用、又は修復して建築工事を行っており、今後の維持管理には文化財的な保存に配慮した修繕が必要であるので、一般的な施設より費用が掛かることが課題である。 隣接する青年の家と一体的に管理がされているが、青年の家の廃止が検討されている。 創垂館は史跡小牧山の文化財としての価値を有していることから、国登録の有形文化財を目指しており、今後も適切な保存と活用が望まれる。 ・単独設置とした場合、警備機器や管理人の配置場所などについて、経費や安全管理面の課題を踏まえ、検討する必要がある。	今後の実施内容・今後の改善内容	青年の家の廃止後の管理運営方法等について、費用対効果や利活用の観点も踏まえ、適切に後世に残していけるような方策について、関係機関等とも協議のうえ、検討を進める。 国の有形文化財への登録に向けて、事務を進める。						
	改善の有無	無		事務事業評価による額	千円		節	細節		細々節
これまでの改善内容										

(4-2)事業継続の可能性(事業のスクラップ可能性)

事業分析	評価項目		評価結果	評価結果を判断した理由
	妥当性	行政が公費を投入して実施することが妥当か(対象を見直すことはできないか)	妥当である	公共施設の運営に係る費用のうち、受益者負担として徴収する使用料収入で不足する経費を公費で投入しており、妥当である。
	有効性	廃止・休止した場合に住民が影響を受けるか	多くの住民に影響がある	貴重な文化財が後世に適切に保存されなくなる。
	効率性	サービスを低下させずに総事業費を削減できないか	現状のままでよい	創垂館は指定管理者において、隣接する青年の家と一体的に管理・運営することで、効率的な運営がされているが、単独設置に向けて、管理運営方法の検討が必要となっている。
		外部への委託や類似事業との統合により事業費の削減の余地はないか	現状のままでよい	隣接する青年の家と一体的に指定管理者制度を導入しており、効率的な運営がされているが、青年の廃止後の管理・運営方法を検討する余地がある。
	公平性	受益者負担は適正か	適正である	小牧市創垂館の設置及び管理に関する条例に基づき使用料を徴収しており、適正である。